

【算数】

「※」は学習するときのヒントです。

8まいや20まいより、もっとたくさんの折り紙を使いたいね。

<学習内容>

◆「2けたの数のわり算」（教科書 75～76 ページ）

折り紙が140まいあります。1人に40まいずつ配ると、何人に分けられるでしょうか。



(1) 下の数直線に、赤ペンで数や矢じるしなどを書きくわえて、どんな式になるか考えましょう。

※図を使うと、考えたり表したりする力が身につくよ。

※教科書 165 ページ「数直線のかき方」をさんこうにしてみてね。



式

※「10 をもとにして」考えると、あまりが出そうだよ。



(2) ゆうきさんともえさんは、あまりについて次のように考えました。



ゆうきさん

「10 をもとにして」考えると、答えは3あまり2になるよ。だから答えは、「3人に分けられて2まいあまる」だね。



もえさん

「2まいあまる」で、本当にいいのかな。もっとたくさんのまい数があまると思うよ。

あなたは、ゆうきさんともえさん、どちらの考えに近いですか。下の四角の中に、自分の考えを書きましょう。

計算では「3あまり2」だけど、あまりは2まいでいいのかな。



「10をもとにして」考えた時、あまりはどうやって求めるの？

- (3) 140まいの折り紙を1人に40まいずつ配ると、何人に分けられて何まいあまるか考え、図と言葉で説明しましょう。

Blank area for student response to question (3).

答え

- (4) たかしさんは、次のように考えました。



たかしさん

もし、 $130 \div 30$ という計算でも「10のまとまりが何こ分か」と考えれば、あまりを求められそうだね。

- $130 \div 30$ の計算のしかたを考え、図や式、言葉で説明しましょう。

Blank area for student response to question (4).

- (5) 教科書76ページ3を、ノートか取組シートに書きましょう。

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆ 2けたの数のわり算（教科書 P75～P76）

- ・ $140 \div 40$ というあまりが出る計算も、「140は10が14個分で、10のまとまりを4個ずつ配ると…」と10をもとにして考えます。このような活動を大切にすることで、あまりの数の大きさを捉える力につながります。